

# ちばの地域福祉

## 中核センターのこれからの期待すること

中核地域生活支援センター評価会議座長

毎日新聞論説委員 野澤和弘

「記号」にすらなれない障害者を思うと悔しくてならない。

相模原の入所施設で19人の重度障害者が殺害された事件で、神奈川県警は被害者全員を匿名で発表した。通常は殺人事件の被害者は実名発表するが、「知的障害者の支援施設であり、遺族のプライバシーの保護等の必要性が高い。遺族からも警察が報道対応するに当たっては特段の配慮をしてほしいとの強い要望があった」という理由からだ。

プライバシーを知られたくない、マスコミの取材攻勢にさらされたくないという気持ちはわかる。しかし、なぜ「知的障害者の支援施設」「遺族のプライバシー保護」のためなのかが納得できない。

容疑者はこの施設で働いていた元職員だ。「保護者の疲れきった表情、施設で働いている職員の生気の欠けた瞳」を見て、「障害者は不幸を作ることしかできない」「安楽死させるべきだ」と衆議院議長への手紙で大量殺人を「予告」していた。妄想としか思えない短慮が私たちを驚愕させるのだが、保護者や施設職員を不幸から解放しようという「倒錯した善意」は、知的障害者の施設や保護者に配慮する県警の匿名発表の底に漂うものにも感じられる。

こういう私の主張は世間では少数派なのであろう。障害者問題に長年取り組んできた弁護士や親の会の間でも匿名は当然だという意見をよく聞く。しかし、私たちは理不尽にも命を奪われた19人がどこの誰なのかまったく分からずにいるのだ。「△△市出身のAさん（56歳）」という記号にすらされないのである。この異常さを、21世紀になった今も引きずっていることに私は絶望的な思いがする。

やはり、障害者を「施設内でしか生きられない特別な存在」ではなく、「地域で暮らす隣人」へと変えていかねばならないと思う。地域福祉の貧弱すぎる実情を見ると、中核センターへの期待をさらに膨らませざるを得ないのである。

# ちから ちばの福祉力・社会資源

## 認知症の人と家族が安心して暮らせる社会を目指して

公益社団法人 認知症の人と家族の会  
千葉県支部代表 広岡成子

認知症の人と家族の会は、1980年1月に京都で生まれ、全国47都道府県に支部を持ち「つどい・会報・相談」の3つを活動の基本として、認知症の人と家族が安心して暮らせる社会を目指し37年の活動を続けてきました。当支部は同年10月に結成され、前述の3つの活動のほか、9月のアルツハイマー月間を中心に講演会や街頭活動等、介護家族を中心に認知症の正しい理解を広げるための啓発活動を行っています。

認知症は今や他人事ではなく誰もが避けては通れない問題であり、2015年1月末に発表された認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～でも「認知症の人やその家族の視点の重視」を掲げており、今後は本人・家族を一体的に支援する必要が望まれます。

地域で支えるといっても未だ偏見が強く、孤立感を募らせる家族も多く、地域のつながりが希薄になっている今、住み慣れた地域での安心した生活の延長を可能にするため認知症サポーターという人材の活かし方の工夫や、本人と家族の支えとなるような地域づくりなど更なる仕組みづくりや啓発活動が求められます。

千葉県・千葉市からの委託事業として開設している、ちば認知症相談コールセンターには様々な相談が寄せられていますが、なかでも認知症の配偶者と障害を持つ子供の複数を介護する家族もあり、地域包括支援センター・中核地域生活支援センターの連携が必須であり、両センターのより一層の周知が必要です。

最近では認知症の人のワーキンググループもでき、本人視点からの生活支援への提案もなされています。そのためには自分から発信できる状態での早期発見が重要であり、家族を含めた関係機関の協力が必要です。

また、高齢者の問題として捉えられている認知症ですが、若年性認知症（65歳未満発症）は、より複雑で深刻な問題を抱えています。相談窓口の充実、施設整備、ケアの研究等の対策が急務となっています。

2017年4月には京都で「認知症：ともに新しい時代へ」第32回国際アルツハイマー病協会国際会議が開かれ、世界から認知症に関する専門家が参加します。この会議への参加も含め私たちはこれからも家族の会の活動を通して本人、家族も発信しながら、行政、民間、地域住民、皆の力で、「やさしい地域づくり」が実現することを願っています。



昨年の該当啓発活動

忘れても  
寄り添うところが  
支えてる

— 認知症 ともに新しい時代へ —

2016年アルツハイマーデー標語

# ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

## 特定非営利活動法人つどい

理事長 藤野友希

～あらゆる人たちがつどえる居場所を創る～

平成 27 年 5 月に、夷隅地域初の重症心身障害児者も通える『つどい』を立ち上げた代表の藤野友希さんにお話を伺いました。



### 夷隅地域に最も足りない社会資源…

これまで長生・夷隅圏域において、中核地域生活支援センターのコーディネーターやグループホーム等支援ワーカーとして相談支援に携わっていた藤野さん。この地域でさまざまな相談を受けていた際に、最も必要な資源だと感じていたのが、『重症心身障害児者の方たちが活動できる居場所』だったそうです。

夷隅地域には、重症心身障害児者、医療的ケアが必要な方々の通える施設がなかったため、相談業務の合間を縫い、活動のできる居場所づくりを行って来ました。活動を通して、本人や家族の想いを形にすることが大切な役割だと感じた藤野さんは、中核センター長生・夷隅ひなたの前理事長の故池口紀夫さんと共に、活動拠点『つどい』を立ち上げました。

### 障がいのある人もない人も、あらゆる人が「つどえる場」として

法人名である『つどい』には、だれもが気軽に立ち寄れる地域の間であり、活動の拠点として「つどえる場」でありたいという想いも込められているそうです。「安心できる 落ち着ける場」であって欲しいという思いを建物に込めて、つどいは木の香りとぬくもりがふんだんに感じられる本格的な木造建築になっています。

法人の理念は、「どんなに重い障害のある方でも、互いに支えあい、地域で生き生きと明るく豊かに暮らしていける地域生活が行えるように地域づくりに努め、生きがいのある未来を目指す」。地域づくりに努める一環として、他事業所と協力してのカフェの開催や、福祉に携わる人達の勉強会の場としてなど、つどいは地域資源として活用されています。

### 利用される人々と、毎日を共に過ごして行きたい

利用者さんの笑顔や、子ども達の成長を感じる毎日は、言葉にできないほど充実した日々とのこと。

今後の課題としては、「重症心身障害の活動を一緒に考え、本人たちと共感できる人材や、子ども達の特性にあわせた支援ができる人材など、個々に併せた寄り添った支援ができる人づくり」と話されていましたが、「つどいとして、利用者の方たちの安心となる居場所であり続け、地域に必要なとされる場であり続けていくことが、一番のミッションかな」と熱く語っていたのが印象的でした。

人と人をつむぎあわせて、拡がりをみせていく『つどい』の活躍に今後も乞うご期待です！

### 『つどい』の事業紹介

- 生活介護事業
- 放課後等デイサービス事業
- 日中一時支援事業
- 計画相談支援事業（相談支援センター『つむぎ』）

〒298-0122 千葉県いすみ市楽町 63-1（夷隅特別支援学校正面入口そば）

TEL:0470-64-6620 FAX:0470-64-6621

メール：npo.tudo-i@sky.plala.or.jp FB：https://www.facebook.com/com/tudo-i.npo





## ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

### 平成 28 年度 児童思春期講演会

- ◆日 時 平成 28 年 10 月 4 日 (火) 14:00～16:30 (開場 13:30)
- ◆会 場 千葉市文化センター 3階 アートホール  
千葉市中央区中央 2-5-1 ツインビル2号館
- ◆内 容

#### 講演

『思春期のこどもの自立 ～トラウマや母子葛藤を越えて～』

講師 ちば心理教育研究所 所長 光元 和憲 氏

#### 【お問い合わせ先】

千葉県精神保健福祉センター 調査研究課

TEL 043-263-3892 FAX 043-265-3963

【参加費】 無料

【申込み締め切り】 9月 23 日 (金) まで

### 平成 28 年度 発達障害就労相談セミナー

- ◆日 時 平成 28 年 9 月 11 日 (日) 13:30～16:30
- ◆会 場 千葉市ビジネス支援センター きぼーる 13 階 会議室 1、2、3  
千葉市中央区中央 4-5-1
- ◆内 容

#### 講演

『発達障害者の就労支援を支えていくために ～障害者雇用の現場から考える～』

講師 テスコ・プレミアムサーチ株式会社

代表取締役 石井 京子 氏

#### 【お問い合わせ先】

千葉県発達障害者支援センター (CAS) 担当・縄岡

TEL 043-227-8557 FAX 043-227-8559

【参加費】 一人 2000 円 / 当日会場受付にて

【申込み締め切り】

8 月 31 日締め切りだが、締め切り後も募集

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：ひだまり (安房圏域) 館山市山本 1155

TEL 0470-28-5667 FAX 0470-28-5668

編集：さんぶエリアネット (山武圏域) 山武市成東 189-3

TEL 0475-53-5208 FAX 0475-80-2808

※内容についてのお問い合わせは、さんぶエリアネット (担当：秋山) までお願いします。